

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 心理臨床コース 助教

氏 名 宮崎 球一

研究期間 平成30年度～平成31年度

(令和元年度)

研究プロジェクトの名称	中学校の教師を対象とした「ポジティブな行動支援」に関する研修プログラムの効果
研究プロジェクトの概要	本研究プロジェクトの目的は、中学校の教職員を対象に、ポジティブな行動支援(positive behavior support: PBS)に関する研修を実施し、その効果を検討することである。近年スクールワイド PBS と呼ばれる、学校全体で PBS を行うことを中核とした取り組みが注目されている。PBS の基礎理論は応用行動分析であり、実践するためには、その取り組みに関わる教職員が応用行動分析の考え方を知る必要がある。しかし、その多くは特別支援学級に在籍していたり、発達障害のある子どもの問題に対応することを狙いとしたものが多い。一方、スクールワイド PBS は、学校全体でポジティブな行動を促進させるための働きかけを教職員が行い、問題行動が起きにくくする一次予防を重視している。本邦で PBS を実践している学校はまだ非常に少なく、「問題が起きてから指導するという事後対処ではなく、ポジティブな行動を支援することで問題を起きにくくする」という生徒指導・支援の考え方は、今後全国的に広まっていくと考えられる。本研究では、妙高市の中学校を対象にスクールワイド PBS 及び応用行動分析の研修プログラムを実施し、その効果を検討する。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	本研究は、計画していた中学校での研修を実施し、PBS に関する理解度や課題を確認することができた。次に、元々の計画では研修の効果を検討するところまでとしていたが、PBS の実践に関する依頼が他の小学校からあり、小学校全体で適応的な行動を促進させるための PBS を実践し、その効果を検討するところまで行うことができた。本研究の取り組み課題である「②学校現場が抱えている諸課題やニーズに対応した研究」として、(1)研修の内容を知った他の教師から PBS 実践の依頼がきたこと、(2)PBS の実践によって全学的な行動変容が確認されたことから、取り組み課題に沿った研究となり、その効果も示すことができたと考えられる。
研究成果の発表状況	本研究の成果は、2020年2月に、日本学校メンタルヘルス学会で発表した。また現在投稿論文を作成中である。
学校現場や授業への研究成果の還元について	本研究を実践した学校から、引き続き PBS を実践するために連携することを依頼されており、現場に還元することができる。また、本学の2020年度の授業でも実践例として取り上げ、学生の学びの促進を図る。

【提出期限】 令和2年3月31日（火）：厳守